

Ⅲ 品格あるくまもと ～地域づくり、環境、新幹線・基盤～

1 戦略の概要

【戦略1：地域づくり】

誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造

【目標】

誇れる地域の魅力をつくります。

【重点的に取り組む施策】

15 くまもと文化の創造と継承、発信

【戦略2：環境】

低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会

県民総ぐるみで世界に誇れる環境立県くまもとをめざします。

16 県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の推進
17 健全な水循環と水環境の保全

【戦略3：新幹線・基盤】

九州新幹線全線開業効果の最大化による県全体の発展

九州新幹線全線開業効果の最大化を図ります。

18 熊本駅周辺の整備
19 新幹線元年戦略の推進
20 幹線道路ネットワークの整備

2 指標の動向

○戦略指標の状況

※「指標の動向」欄は、戦略策定時と評価時の比較を表している。なお、平成20年度からの累計で示す指標は常に上向きとなるため、「-」と表示。

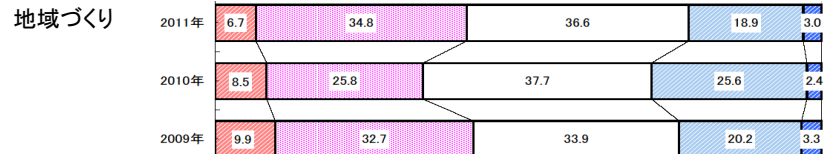
	指標	戦略策定時 (平成20年度)	評価時 (平成23年度)	指標の動向	目標値 (平成23年度末)	備考
戦略1	世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	4カ所(H20)	5カ所(H23)	↑	10カ所	
	文化施設の利用者数	82.3万人/年(H19)	83.5万人/年(H22)	↑	86.2万人/年	
	火の国未来づくりネットワーク会員の新規加入数(平成20年度からの累計)	9団体/年(H19)	46団体(H23)	-	40団体/4年間	《目標値達成》
	ロアッソ熊本ホームゲーム1試合平均入場者数	5,279人(H20)	6,907人(H22)	↑	J2の1試合平均入場者数(H23)を上回る	《目標値達成》
	県立スポーツ施設の利用者数(観客数を含まない)	125万人/年(H19)	120万人/年(H22)	↓	129万人/年	KKWING、パークドームにおいて、改修による使用不能期間があったため
戦略2	温室効果ガス総排出量削減率(基準年:平成2年)	+10.2%(H18)	+1.0%(H20)	↓	-6%	
	地球温暖化防止行動を実践する県民の割合	80.1%(H19)	94.1%(H23)	↑	90%	《目標値達成》
	一人一日当たりの上水道使用量	3412/人・日(H18)	【集計中】(H21)	***	3352/人・日	
	地下水の採取量の削減	26,739万m ³ (H18)	25,391万m ³ (H20)	↓	26,071万m ³	《目標値達成》
	公共用水域における環境基準(BOD・COD)の達成状況	河川 93.8% 湖沼 100.0% 海域 73.7%(H19)	河川 % 湖沼 % 海域 (H22)【集計中】	***	河川 100% 湖沼 100% 海域 100%	
戦略3	観光宿泊客数	691万人/年(H19)	641万人/年(H21)	↓	750万人/年	世界同時不況や新型コロナウイルスの影響等による
	KANSAI地域(関西・中国地方)における認知度(関心の度合い)	13%(H18)	H23.12調査予定	***	26%	
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	35%(H19)	44%(H22)	↑	44%	《目標値達成》

○県民アンケート結果

《各戦略に対する満足度(2009-2011年)》

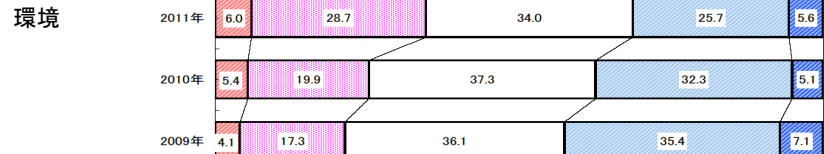
《もっと力を入れてほしい項目(2011年)》

【戦略1】



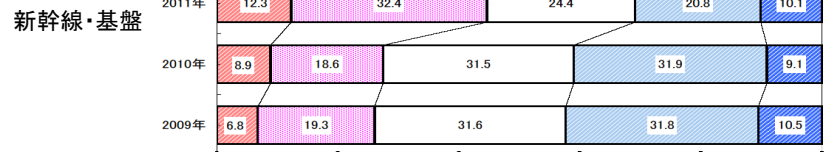
- 1位: まち並み、沿道などの景観形成の推進
- 2位: 農林水産資源を生かした交流・定住促進対策の推進
- 3位: くまもと文化の創造と継承、発信

【戦略2】



- 1位: 県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の推進
- 2位: 健全な水循環と水環境の保全
- 3位: バイオマス利活用の推進、新エネルギー対策

【戦略3】



- 1位: 新幹線開業を契機とした地域づくりと熊本の認知度向上
- 2位: 熊本駅周辺の整備
- 3位: 主要都市を結ぶ幹線道路ネットワークの整備

■満足 □やや満足 □どちらでもない □やや不満 ■不満

3 戦略の推進状況・今後の方向性

【戦略1】誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造

【15 くまもと文化の創造と継承、発信】

・ 鞠智城の特別史跡指定、国営公園化に向け、平城遷都1300年祭や世界大百済典など国内外での出展、イメージキャラクター「ころう君」を活用した広報展開を図り、知名度が向上した。
 ・ 世界文化遺産登録に向け、阿蘇等3資産の学術的検討を行う専門委員会を開催し、文化財国指定のための学術的調査等が進んだ。うち、「崎津の漁村景観」が国の重要文化的景観に選定。また、人吉・球磨をモデル地域に設定し、文化財指定・登録申請に向けた基礎資料を収集。
 ・ 細川コレクションに関する展覧会を5回開催。県内外からの来館者が約3万人に達した。また、地元演劇人の総力を結集した県芸術文化祭オープニング「上通物語」等が高い評価を得た。
 ● 「歴史回廊くまもと」の素材となる文化財の国指定・登録の推進、活用を継続して図っていく。また、推進協議会等を通じて関係者の意思統一や連携体制の確立を図り、着実に世界文化遺産登録に向けた取組を進める。更に、永書文庫の周知や地域文化資源の掘り起こし、磨き上げを進め、文化を活用した地域活性化に繋げていく。



崎津の漁村景観

【戦略2】低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会

【16 県民総ぐるみによる地球温暖化対策とエコ活動の推進】

・ 熊本県地球温暖化の防止に関する条例に基づく3つ(事業活動、エコ活動、建築物)の計画書制度の運用を開始し、延べ223事業者、29建築主から計画書を受領した。
 ・ 住宅・事業所向けの補助制度や県立学校(10校)への設備の設置、電動バイク駐輪場(2か所)の整備などを通じ、太陽光発電システムの導入が促進された。
 ・ 13,600haの間伐実施等により、継続して森林のCO2吸収機能が増進。また、J-VER制度による県有林のCO2吸収量のクレジット取得に向けた認証申請の準備が整った。
 ● ストップ温暖化県民総ぐるみ運動の継続的な実施、新たな計画書制度の導入、また太陽光発電システム導入補助等により、温暖化防止に向けた県民一人一人の実践行動も広がっており、これらの取組をより一層拡充する。更に、木質バイオマスや小水力などを活用した新エネルギーの導入を進めていくことにより、CO2排出量の削減を図る。



八代工業高校の太陽光発電システム

【17 健全な水循環と水環境の保全】

・ 熊本の地下水の未来について有識者により検討する「水の戦略会議」から、「水の国くまもと」の魅力の発信等に関する最終提言が得られた。また、熊本地域地下水保全対策会議(県・11市町村)において、中核組織設立の基本合意に達した。
 ・ 公共用水域等の調査、有明海・八代海の重点調査により、水環境の実態把握が進んだ。また、人口減少等の社会構造の変化に対応するための生活排水対策の新マスタープランとなる「くまもと生活排水処理構想2011」の素案がまとまった。
 ● 地下水保全のため、県地下水保全条例を改正し、採取の適正化に向けた規制強化を図る。また、「水の国くまもと」のPRを進めるほか、水質モニタリングの継続、硝酸性窒素汚染の現状把握及び同対策、生活排水処理施設整備等を進めていく。

【戦略3】九州新幹線全線開業効果の最大化による県全体の発展

【18 熊本駅周辺の整備】

・ 新幹線駅と在来線駅間の地下連絡通路工事や市電を歩道側に寄せるサイドリザーション化等が完了し、駅周辺のアクセスが改善。また、新幹線高架下に在来線を移設する2次仮線も進捗。
 ・ 白川口(東口)駅前広場(暫定形)整備、デザイン統一の駅周辺・乗換案内サイン設置、新幹線高架下の県産品販売店開設等により、景観や機能の向上、魅力化が進んだ。
 ● 「県都の品格ある玄関口」にふさわしい完成形に向けた着実な整備を進めるとともに、魅力と賑わいづくりに向け、JRや経済界等と連携して○番線跡地や鉄道高架下の利活用を検討する。



新みやげ「くまもと うまカモン！」

【19 新幹線元年戦略の推進】

・ 「くまもとサプライズアワード」による地域づくりの取組の掘り起こし・支援、新幹線元年キャラバンの実施、くまもとサプライズロゴ、キャラクター「くまモン」の使用承認などを通じ、県民の機運醸成が進んだ。
 ・ KANSAI地域では、くまモンの看板・ポスター掲出、吉本新喜劇出演、Twitter活用等のメディアミックスによる話題化を進め、約6億4千万円相当の広報効果を得た。首都圏では、地下鉄車内での観光PR、くまもとフェア開催、テレビ番組のタイアップ企画等を実施し、東京事務所の取材対応件数が前年度比5割増(157件)に達するなど認知度向上が進んだ。
 ・ 熊本市との連携により、21品の新たな土産品を開発。県内主要物産施設等での販売に繋がった。
 ● 新幹線元年事業の効果を継続させるとともに、新幹線駅周辺等部分的なエリアに留まらないよう、各地域の市民力を活用した事業展開が必要。そのため、熊本の魅力向上と県外からの誘客に向け、県民総参加による地域づくりを進めるとともに、交通アクセスやくまもとツーリズムなどを含めた県内外への総合的な情報発信を進めていく。

【20 幹線道路ネットワークの整備】

・ 国道57号立野幅拡において、立野交差点～阿蘇口交差点間の1.7kmが供用開始。これにより、幹線道路の整備進捗率の目標値を達成。また、そのほか、南九州西回り自動車道、九州中央自動車道、熊本環状道路(国道3号北バイパス、国道57号東バイパスほか)、中九州横断道路、熊本天草幹線道路大矢野バイパスなど、計画的な事業進捗が図られた。
 ● 九州の中心に位置するという本県の拠点性を高めるためには、横軸の道路整備が引き続き最重要課題。要となる熊本西環状道路、熊本天草幹線道路大矢野バイパスの整備に継続して重点的に取り組む。また、国に対し、九州中央自動車道等の直轄事業の重点実施に向け、より積極的に働きかけていく。